

3

「美しい森林づくり全国推進会議」事務局長 宮林茂幸氏が見据えるビジョン

森林づくり活動が 人のハートも育てる

平成十九年六月に発足した「美しい森林づくり全国推進会議」は、里山の整備などの森林づくりはもちろん、人材の確保・教育、国産材を使ったライフスタイルの提案など、地域づくりや人づくりまで含めた幅広い活動を行っている団体です。また、「美しい森林づくり全国推進会議」

の総会を開催し活動内容の報告などを行っています。

ひと口に「美しい森林づくり」といっても、皆さんきつとよく分からないですよ。私たちの幼い頃には『うみひこやまひこ』など、森や川、自然にかかわる物語がいっぱいありました。けれども今、そういった話はなかなか聞くことがありません。最近の私たちは森林が大切であることは知っていますが、森林の具体的な役割や私たちの生活との関係性までは認識が薄いというのが現状だと思います。

森林の持つ役割は時代の流れや経済変動によって変化するものです。現在は国土の七十%近

くを森林が占めています。木が主なエネルギーだった頃——おそらく一〇〇年前は五十%を切っていたと思います。その後、木や森林の大切な機能を理解していた先人達は治山事業などによって驚くような早さで現在の七十%近い森林率まで回復させてきましたが、そうして築きあげられた森林が安泰かというと、今、決してそうではありません。人手不足や木材価格の暴落で、放置されている山が沢山あるんです。手入れをしないことが逆に、災害を起こす原因にもなっています。

また、二十一世紀は環境の時代と言われていますが、もつとも影響を受けるのは、基本的には「水」だと思います。なぜなら、温暖化が進むと雪が降らなくなりますよね。そうすると雪解け水が出なくなり、水自体の量が減ります。その分をどこに蓄えるかと言えば、山（森林）の中しかないんです。保水性のある山をつくるために、間伐をはじめとする

宮林 茂幸 (みやばやし しげゆき)



地域環境科学部長
1975年東京農業大学農学部林学科卒業。2000年に同大学地域環境科学部森林総合科学科教授に就任。持続的な森林保全及び利用の在り方や、農山村と都市の交流をテーマに森林についての研究を行っている。その研究の場として「多摩川源流大学」を2006年に設立。昨年から「美しい森林づくり全国推進会議事務局」(<http://www.b-forest.org/>)の局長を務める。主な著書に『森林レクリエーションとむらおこし・やまづくり』(全国林業改良普及協会)など。

森林整備活動は必要不可欠なんです。その大切さ、大変さを、美しい森林づくり活動を通して幅広い世代に知ってもらいたい、参加してもらいたいと思います。実際の山では、小さいお子さんなどはもしかしたら木や道具で手を切ってしまうかもしれません。でも、誤解を恐れずに言えばそれも勉強なんです。痛みを知ること、で、「ハート」が育つ。そのハートが人や自然への優しさを生み出す。「美しい森林づくり」というのは、多様なところへと広がっていく活動なんです。

